**【論点】**

**自分の主張を読者に理解してもらうための以下の作業を実際にやってみましょう。**

**・適切な理由とエビデンスを選択する**

**・読み手を認知し応答する**

**・論理づけを行う**

**・適切にエビデンスを提示する**

**◆主張を立てる際に、それについて議論することが重要なのか？、が重要となる**

…as you assemble your argument, you must also be sure that your claim is not just sound, but significant enough to need an argument in the first place.（p.120）

**◆読者が主張の妥当性を、それを支える理由とエビデンスの確からしさを見て判断する**

・Readers look first the core of an argument, a claim and its support.（p.130）

・…you must offer readers a plausible set of reasons, in a clear, logical order, based on evidence they will accept.（p.130）

**◆必ず理由を支持する十分なエビデンスを提示する必要がある**

Once you've arranged your reasons in a plausible order, be sure you have sufficient evidence to support each one.（p.131）

**BUT 良いエビデンスだと思っていても、懐疑的な読者は、さらに確実なエビデンスが必要な理由だと思うかもしれない**

Such a reader treats that statement not as an unquestioned fact but as a soft reason still in need of hard evidence.（p.132）

**◆書き手は考えられる読者の質問と反駁を想像し、それらに応える必要がある**

You must respond to their predictable questions and objections.（p.139）

**◆読者は主張の理由が真か否かと両者の関連性を疑うので、主張と理由をつなぐ論理付けが重要である**

A warrant is a statement that connects a reason to a claim. It is important issue, because readers may challenge not just the truth of a reason but its relevance as well.（p.152）

**◆読者の多くにとって、量的なエビデンスは文字よりも図表のほうが理解しやすい**

Most readers grasp quantitative evidence more easily in tables, charts, and graphs than they do in words.（p.213）

**BUT 主張の正しさを証明するためにエビデンスを歪めてはいけない**

Do not distort the image of the data to make your point.（p.226）

⇒(論文の中で)自分の主張を読者に理解してもらうためには、

|  |
| --- |
| 主張　　⇔　　なぜなら　　⇔　　理由　　⇔　　基づく　　⇔エビデンス |

論理付け

理由とエビデンスは適切？

読者のしうる質問や反駁に対する応答はしてる？

が必要である。

**⇒では、以上の点を意識した上で、以下の設定で読者の理解を得られる主張にするにはどうしたらいいか。班で提示している資料を参考にして、どのような理由とエビデンスが示せるか考えてみましょう！**

［設定］

問題意識

学習指導要領の改正により、脱ゆとりになったことでゆとり教育のメリットが失われ得る[[1]](#footnote-1)

主張したいこと

ゆとり教育のメリット（授業内容の軽減、総合的な学習の時間の設置による児童生徒が自ら学ぶことが可能な自由時間の確保）を維持するべきである。

[理由/エビデンスの材料]

考えてみた理由

1. ゆとり教育時には子どもの自由時間が確保されていたから
2. 現在行われている教育が知識偏重だから
3. 現在のカリキュラムでは独自性が出せないから

理由を元に集めてみたエビデンス

1. **子どもたちの自由時間等に関するエビデンス**

◆1-1　NHK放送文化研究所「2010年国民生活時価調査報告書」[[2]](#footnote-2)（2010年）

[調査年]2010年（とその前に行われている2005年の結果との対比）

[調査対象]全国の10歳以上の国民、無作為抽出

[調査数]1905人(回収率：68.1％)

[調査結果]

「趣味娯楽教養[[3]](#footnote-3)の時間量（男女年層別）」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 平日 | 土曜 | 日曜 |
| （時間　分） | 2005年 | 2010年 | 2005年 | 2010年 | 2005年 | 2010年 |
| 国民全体 | 0：25 | 0：25 | 0：41 | 0：43 | 0：48 | 0：49 |
| 10代男性 | 0：47 | 0：45 | 1：35 | 1：47 | 1：34 | 2：00 |
| 10代女性 | 0：30 | 0：41 | 1：01 | 1：27 | 0：58 | 1：05 |

◆1-2　中学受験情報局『かしこい塾の使い方』「どれくらいの数のお子さんが中学受験するの？」[[4]](#footnote-4)（2010～2012年）

[調査結果]

「東京・神奈川　2月1日出願状況による受験者数(推定)」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年度 | 応募者数 | 受験率 |
| 2011年 | 60,958人 | 14.87％ |
| 2012年 | 61,062人 | 14.80％ |
| 2013年 | 60,808人 | 14.42％ |

◆１-3　ベネッセ教育総合研究所「学習基本調査報告書」（1990～2006年）[[5]](#footnote-5)

・小中高版

[調査年]1990年、1996年、2001年、2006年

[調査対象]全国３地域(大都市、地方都市、郡部)の中学２年生の男女、全国４地域(東京都内、および東北、四国九州地方の都市部と郡部)の普通科高校２年生の男女

・国際比較版

[調査年]2006～2007年

[調査対象]東京、ソウル、北京、ヘルシンキ、ロンドン、ワシントンDCの10～11歳の男女

[調査人数]東京(1105人)、ソウル(1300人)、北京(1195人)、ヘルシンキ(526人)、ロンドン(891人)、ワシントンDC(955人)

※「よくする」「時々する」を「する」と表示、「あまりしない」「ほとんどしない」を「しない」と表示した

※1990～2001年の調査対象としている児童生徒はゆとり教育以前、2006年の調査対象としている児童生徒は、それぞれ小学生はすべてゆとり教育、中学生は小学校３学年からゆとり教育、高校生は中学校１学年からゆとり教育の世代である

※無回答及び不明は表示していない

◇小学生版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| 授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる | あてはまる | 4.2 | 6.3 | 7.6 | 8.0 |
| まああてはまる | 31.5 | 49.6 | 47.2 | 49.4 |
| あてはまらない | 62.4 | 43.4 | 44.1 | 41.7 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| 地域の図書館で本を読んだり借りたりする | する | 43.5 | 51.3 | 51.4 | 53.4 |
| しない | 56.4 | 47.9 | 47.5 | 46.2 |

◇中学生版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| 授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる | あてはまる | 3.1 | 4.5 | 3.9 | 4.1 |
| まぁあてはまる | 30.2 | 37.2 | 35.3 | 38.7 |
| あてはまらない | 66.4 | 57.9 | 60.4 | 56.9 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| 地域の図書館で本を読んだり借りたりする | する | 24.9 | - | 30.9 | 29.3 |
| しない | 74.6 | - | 67.9 | 70.2 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| あなたはいま、部活動に入っていますか | 運動部、積極的に活動している | 53.4 | - | - | 63.7 |
| 運動部、サボリぎみ | 17.8 | - | - | 9.4 |
| 文化部、積極的に活動している | 11.6 | - | - | 15.9 |
| 文化部、サボリぎみ | 5.7 | - | - | 3.2 |
| 入っていない | 10.1 | - | - | 6.5 |

◇高校生版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| 授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる | あてはまる | 2.0 | 1.9 | 2.0 | 2.2 |
| まぁあてはまる | 19.4 | 20.6 | 22.3 | 23.0 |
| あてはまらない | 78.4 | 77.3 | 74.7 | 74.7 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| 地域の図書館で本を読んだり借りたりする | する | 23.1 | - | 31.0 | 27.1 |
| しない | 76.7 | - | 68.0 | 72.5 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| あなたはいま、部活動に入っていますか | 運動部、積極的に活動している | 34.0 | - | - | 51.1 |
| 運動部、サボリぎみ | 7.9 | - | - | 5.2 |
| 文化部、積極的に活動している | 13.7 | - | - | 18.1 |
| 文化部、サボリぎみ | 9.4 | - | - | 4.5 |
| 入っていない | 32.8 | - | - | 20.2 |

◇国際比較版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 東京 | ソウル | 北京 | ヘルシ | ロンド | ワシン |
| 授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる | あてはまる | 56.7 | 45.7 | 75.1 | 57.2 | 61.4 | 66.2 |
| まぁあてはまる | 36.7 | 50.4 | 24.2 | 40.7 | 36.3 | 32.6 |
| あてはまらない | 5.3 | 3.5 | 0.7 | 0.8 | 2.2 | 1.0 |

◆1-4　株式会社日本総合研究所「地域の教育力に関する実態調査」[[6]](#footnote-6)（2005年）

[調査年]2005年

[調査対象]選定した10自治体の公立小中学校の児童生徒及びその保護者

[調査数]子ども2953人(回収率：92.0％)、保護者2888人(回収率：90.4％)

[調査結果]

ひとりで過ごす時

(ア)ひとりですること：

(イ)ひとりで過ごす時間(平均)：学校がある日の放課後は1.9時間、土日は2.4時間

みんなで過ごす時

(ア)みんなですること：

(イ)みんなで過ごす時間(平均)：学校がある日の放課後は2.3時間、土日は3.2時間

塾や習い事

(ア)塾や習い事の有無：

学校がある日に塾や習い事のある子どもは73.6％、土日に塾や習い事のある子どもは40.1％

(イ)塾や習い事の内容：

学校がある日は、スポーツ(45.5％)、塾(45.4％)、楽器演奏(24.3％)、土日は、スポーツ(57.6％)、塾(25.9％)、楽器演奏(10％)

(キ)塾や習い事が楽しいか：

学校がある日は、63.8％が楽しいと感じている、土日は、71.0％が楽しいと感じている

1. **現在行われている学校教育が知識偏重というエビデンス**

◆2-1　国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査：2012年調査分析資料集」[[7]](#footnote-7)（2012年）

|  |
| --- |
| 数学における「基本問題」の学習経験指標 |
| 1.上海2.シンガポール | 2.302.23 |
| 9.韓国10.日本 | 2.072.05 |
| OECD平均 | 1.70 |
| 63.チュニジア64.アイスランド65.スウェーデン | 1.231.140.77 |

|  |
| --- |
| 数学における「応用問題」の学習経験指標（0～3） |
| １.タイ２.インドネシア３.メキシコ | 2.372.352.24 |
| 　OECD平均 | 1.92 |
| 56.台湾57.日本 | 1.751.75 |
| 64.マカオ65.チェコ | 1.621.57 |

（表：班作成）

◆2-2　日本経済新聞「学力テスト、地域差は縮小　応用力になお課題」[[8]](#footnote-8)（2013/8/28）

|  |
| --- |
| 文部科学省は27日、小学６年と中学３年を対象に４月に実施した2013年度全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果を公表した。公立小学校では、全国平均と最下位県の正答率の差が07年度の調査開始以来初めて全教科で５ポイント以内に収まった。文科省は「下位の地域で学力の底上げが進んでおり、地域差は縮まっている」と分析している。**応用力をみる問題を中心に、過去４回のテストで正答率が低かった分野から15問を出題したところ、改善がみられたのは２問にとどまった。**苦手分野の克服が進んでいない現状も浮かんだ。今回は４年ぶりの全員参加方式で、全国の国公私立約３万１千校の約221万７千人が受けた。実施教科は国語と算数・数学。平均正答率は基礎的な知識の定着度をみる「Ａ問題」が62.9～77.3％、応用力を測る「Ｂ問題」が42.4～68.0％だった。国語は理由と根拠を明確にして**自分の考えをまとめる力**、算数・数学では複数の図表から**問題解決に必要な情報を読み取る力**をみる問題の**正答率が低かった。**文科省は**「自分の知識を日常生活に生かす力に課題のある児童生徒が依然として多い」**としている。 |

◆2-3　ニュースの教科書「OECDの学力調査。ゆとり教育見直しの結果、順位は上昇したが…」[[9]](#footnote-9)（2013/12/9）

|  |
| --- |
| OECD（経済協力開発機構）は12月3日、世界65カ国（地域）を対象とした2012年における学習到達度調査（PISA）の結果を発表した。日本は、数学的応用力の分野で7位、読解力と科学的応用力で4位となり、前回調査から順位を上げた。学力低下が問題視され、ゆとり教育が見直されたが、その成果がそのまま反映された形だ。…（省略）…**日本より上位に位置している国・地域は**、上海（中国）、シンガポール、香港（中国）、台湾、韓国、マカオ（中国）であり、漢民族系のアジアの国や地域が独占している。これらの国々は日本と同様、**いわゆる詰め込み型の暗記教育を重視しており、その結果が如実に反映されている**…（省略）…とりあえず**授業時間の増加で学力低下には歯止めがかかった**。だが、**こうした詰め込み型教育で、中国や韓国などの新興国と争うのが本当に正しい道なのか**という、以前から議論されていた**課題に逆戻りしてしまった印象**もある。 |

◆2-4　NHK放送文化研究所「中学生・高校生の生活意識調査・2012」[[10]](#footnote-10)（2012年）

[調査年]2012年

[調査対象]無作為抽出した全国の12～18歳の男女及びその父母

[調査数]生徒1142人(有効数：63.4％)、父親969人(有効数：53.8％)、母親1230人(有効数：68.3％)

[調査結果]

【父母調査】―個性を生かす教育が行われているか―

|  |
| --- |
| 第12問〔全員に〕ところで，学校では，ひとりひとりの個性を生かした教育が行われていると思いますか。それともそうは思いませんか。あなたのお気持ちに近いものはどれでしょうか。 |
|  | 父親(％) | 母親(％) |
| 1.個性を生かした教育が行われている | 3.9 | 4.7 |
| 2.どちらかといえば，個性を生かした教育が行われている | 28.5 | 33.3 |
| 3.どちらかといえば，個性を生かした教育は行われていない | 44.3 | 45.6 |
| 4.個性を生かした教育は行われていない | 21.3 | 14.9 |
| 5.無回答 | 2.1 | 1.5 |

◆2-5　ベネッセ教育総合研究所「第４回学習基本調査報告書・国内調査　中学生版」[[11]](#footnote-11)、「第４回学習基本調査報告書・国内調査　高校生版」[[12]](#footnote-12)（2006年）

[調査年]2006年

[調査対象]全国３地域(大都市、地方都市、郡部)の中学２年生の男女、全国４地域(東京都内、および東北、四国九州地方の都市部と郡部)の普通科高校２年生の男女

[調査数]中学生：2371人、高校生：4464人

[調査結果][[13]](#footnote-13)

◇中学生版　「図2-1-23　学習方法のタイプ」



◇高校生版　「図2-1-22　学習方法のタイプ」

1. **各学校のカリキュラムに独自性が出せないというエビデンス**

◆3-1　文部科学省「学習指導要領で定められた授業時間数」[[14]](#footnote-14)

※表中の数字は年間の授業時数。括弧内の数字は週当たりの授業時数。

小学校　昭和46年度～（昭和43年改訂）　※ゆとり教育以前

|  |  |
| --- | --- |
|  | **学年** |
| **1** | **2** | **3** | **4** | **5** | **6** |
| **教科等** | **国語** | 238（7） | 315（9） | 280（8） | 280（8） | 245（7） | 245（7） |
| **社会** | 68（2） | 70（2） | 105（3） | 140（4） | 140（4） | 140（4） |
| **算数** | 102（3） | 140（4） | 175（5） | 210（6） | 210（6） | 210（6） |
| **理科** | 68（2） | 70（2） | 105（3） | 105（3） | 140（4） | 140（4） |
| **音楽** | 102（3） | 70（2） | 70（2） | 70（2） | 70（2） | 70（2） |
| **図画工作** | 102（3） | 70（2） | 70（2） | 70（2） | 70（2） | 70（2） |
| **家庭** | － | － | － | － | 70（2） | 70（2） |
| **体育** | 102（3） | 105（3） | 105（3） | 105（3） | 105（3） | 105（3） |
| **道徳** | 34（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） |
| **計** | 816（24） | 875（25） | 945（27） | 1,015（29） | 1,085（31） | 1,085（31） |

※特別活動の時数の規定はない。（ただし、学習指導要領において、特別活動の学級会活動（第1学年～第6学年）及びクラブ活動（第4学年～第6学年）にそれぞれ毎週1単位時間を充てることが望ましいとしていた。）

平成14年度～（平成10年改訂）　※ゆとり教育期

|  |  |
| --- | --- |
|  | **学年** |
| **1** | **2** | **3** | **4** | **5** | **6** |
| **教科等** | **国語** | 272（8） | 280（8） | 235（6.7） | 235（6.7） | 180（5.1） | 175（5） |
| **社会** | - | - | 70（2） | 85（2.4） | 90（2.6） | 100（2.9） |
| **算数** | 114（3.4） | 155（4.4） | 150（4.3） | 150（4.3） | 150（4.3） | 150（4.3） |
| **理科** | - | - | 70（2） | 90（2.6） | 95（2.7） | 95（2.7） |
| **生活** | 102（3） | 105（3） | - | - | - | - |
| **音楽** | 68（2） | 70（2） | 60（1.7） | 60（1.7） | 50（1.4） | 50（1.4） |
| **図画工作** | 68（2） | 70（2） | 60（1.7） | 60（1.7） | 50（1.4） | 50（1.4） |
| **家庭** | - | - | - | - | 60（1.7） | 55（1.6） |
| **体育** | 90（2.6） | 90（2.6） | 90（2.6） | 90（２.6） | 90（2.6） | 90（2.6） |
| **道徳** | 34（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） |
| **特別活動** | 34（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） |
| **総合** | - | - | 105（3） | 105（3） | 110（3.1） | 110（3.1） |
| **計** | 782（23） | 840（24） | 910（26） | 945（27） | 945（27） | 945（27） |

※特別活動は、学級活動に充てる授業時数。

平成23年度～（平成20年改訂）　※脱ゆとり期

|  |  |
| --- | --- |
|  | **学年** |
| **1** | **2** | **3** | **4** | **5** | **6** |
| **教科等** | **国語** | 306（9） | 315（9） | 245（7） | 245（7） | 175（5） | 175（5） |
| **社会** | - | - | 70（2） | 90（2.6） | 100（2.9） | 100（3） |
| **算数** | 136（4） | 175（5） | 175（5） | 175（5） | 175（5） | 175（5） |
| **理科** | - | - | 90（2.6） | 105（3） | 105（3） | 105（3） |
| **生活** | 102（3） | 105（3） | - | - | - | - |
| **音楽** | 68（2） | 70（2） | 60（1.7） | 60（1.7） | 50（1.4） | 50（1.4） |
| **図画工作** | 68（2） | 70（2） | 60（1.7） | 60（1.7） | 50（1.4） | 50（1.4） |
| **家庭** | - | - | - | - | 60（1.7） | 55（1.6） |
| **体育** | 102（3） | 105（3） | 105（3） | 105（3） | 90（2.6） | 90（2.6） |
| **道徳** | 34（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） |
| **外国語活動** | - | - | - | - | 35（1） | 35（1） |
| **特別活動** | 34（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） | 35（1） |
| **総合** | - | - | 70（2） | 70（2） | 70（2） | 70（2） |
| **計** | 850（25） | 910（26） | 945（27） | 980（28） | 980（28） | 980（28） |

◆3-2　東京工業大学130周年記念サイト（2011年）[[15]](#footnote-15)

|  |
| --- |
| **わが国の敎育制度及びその内容には、いろいろ不備の点もあり**、欠陥もあるが、**そのうちで一番大きな欠点として識者の間に広く認められていることは、それが画一的であり、詰込主義的であるということ**であった。この、個性と知性の自由な発達を尊重しない教育のやり方に對し、先ず強い反省が加えられなければならない。 |

◆3-3　国立教育政策研究所「平成24年度　職場体験・インターンシップ実施状況等調査結果(概要)」（2012年）[[16]](#footnote-16)

|  |
| --- |
| １ 本調査は、全国の国・公・私立の中学校及び高等学校（全日制・定時制・通信制）を対象に、平成２４年度の中学校職場体験・高等学校インターンシップの全国的な実施状況を平成２５年３月現在で取りまとめたものである。２ 中学校職場体験(1)公立中学校における職場体験の実施状況は、９，７８１校中９，５８２校と９８．０％となり過去最高である。実施率としては、昨年度より１．１ポイント上回った。(2)実施期間については、９，５８２校中「５日」の実施校が１，４２１校(１４．８％)、「６日以上」の実施校が３９校(０．４％)であった。「５日」の実施校は５年連続減少傾向にある。(3)教育課程等への位置付けの状況については、「総合的な学習の時間で実施」が８１．１％、「総合的な学習の時間で実施し、特別活動の学校行事としても読み換えている」が８．５％、「特別活動で実施」が７．１％である。また、参加形態は、ほとんどが「原則として全員参加」である。(4)都道府県・政令指定都市別実施率が１００％であるのは、富山県、福井県、山梨県、岐阜県、愛知県、滋賀県、兵庫県、広島県、山口県、宮崎県、仙台市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、京都市、神戸市、岡山市、福岡市の１０県９政令指定都市である。（下線は５日以上の職場体験が域内全校で行われている自治体）(5)国・私立中学校における実施率は、国立では５９．２％、私立では２３．２％である。 |

◆3-4　ベネッセ教育総合研究所「総合的な学習の時間への実施期待」（1999年）[[17]](#footnote-17)

３．教育課程の基準の改善の「ねらい」についての判断傾向

1. **その他、上記には該当しないエビデンス**

◆4-1　国立教育政策研究所「OECD国際教員指導環境調査(TALIS)」（2013年）[[18]](#footnote-18)

[(日本の)調査年]2013年(但し、２～３月のため、年度は2012年度にあたる)

[(日本の)調査対象]無作為抽出された前期中等教育段階において通常の仕事として指導を行う教員及びその校長

[(日本の)調査数]192校、192人の校長及び3484人の教員

表９　指導実践

※各項目を行う頻度として「ほとんどいつも」、「しばしば」、「時々」、「ほとんどなし」の４つの選択肢のうち、「ほとんどいつも」「しばしば」と回答した教員の割合

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 日本(%) | 参加国平均(%) |
| 前回の授業内容のまとめを示す | 59.8 | 73.5 |
| 生徒が少人数のグループで、問題や課題に対する共同の解決策を考え出す | 32.5 | 47.4 |
| 学習が困難な生徒、進度が遅い生徒には、それぞれ異なる課題を与える | 21.9 | 44.4 |
| 新しい知識が役立つことを示すため、日常生活や仕事での問題を引き合いに出す | 50.9 | 68.4 |
| 全生徒が単元の内容を理解していることが確認されるまで、類似の課題を生徒に演習させる | 31.9 | 67.3 |
| 生徒のワークブックや宿題をチェックする | 61.3 | 72.1 |
| 生徒は完成までに少なくとも一週間を必要とする課題を行う | 14.1 | 27.5 |
| 生徒は課題や学級での活動にICT(情報通信技術)を用いる | 9.9 | 37.5 |

表10　教員の仕事時間

※直近の「通常の一週間」において、各項目の仕事に従事した時間の平均。「通常の一週間」とは、休暇や休日、病気休業などによって勤務時間が短くならなかった一週間とする。週末や夜間など就業時間外に行った仕事を含む。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 日本(時間) | 参加国平均(時間) |
| 仕事時間の合計 | 53.9 | 38.3 |
| 指導(授業)に使った時間 | 17.7 | 19.3 |
| 学校内外で個人で行う授業の計画や準備に使った時間 | 8.7 | 7.1 |
| 学校内での同僚との共同作業や話し合いに使った時間 | 3.9 | 2.9 |
| 生徒の課題の採点や添削に使った時間 | 4.6 | 4.9 |
| 生徒に対する教育相談に使った時間 | 2.7 | 2.2 |
| 学校運営業務への参画に使った時間 | 3.0 | 1.6 |
| 一般的事務業務に使った時間 | 5.5 | 2.9 |
| 保護者との連絡や連携に使った時間 | 1.3 | 1.6 |
| 課外活動の指導に使った時間 | 7.7 | 2.1 |

◆4-2　ベネッセ教育総合研究所「学習基本調査報告書」（1990～2006年）[[19]](#footnote-19)

※「よくある」「時々ある」を「ある」と表示、「あまりない」「ほとんどない」を「ない」と表示した

※1990～2001年の調査対象としている児童生徒はゆとり教育以前、2006年の調査対象としている児童生徒は、それぞれ小学生はすべてゆとり教育、中学生は小学校３学年からゆとり教育、高校生は中学校１学年からゆとり教育の世代である

※無回答及び不明は表示していない

◇小学生版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1990年 | 1996年 | 2001年 | 2006年 |
| 授業の内容が難しいと思う | ある | 41.5 | 55.4 | 52.6 | 45.9 |
| ない | 57.7 | 43.9 | 46.8 | 53.7 |
| 授業の内容が簡単すぎると思う | ある | 27.5 | 35.2 | 42.1 | 39.5 |
| ない | 71.7 | 64.5 | 56.7 | 59.5 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| あなたは勉強について、次のように思うことがありますか(複数回答可) | 覚えなければいけないことが多すぎる | 43.0 | 40.0 | 39.7 | 35.4 |
| もっと成績をよくしたい | 81.3 | 78.2 | 80.3 | 78.7 |
| 新しいことを知るのが好きだ | 58.1 | 55.7 | 62.3 | 60.0 |
| 何のために勉強しているのかがわからない | 10.3 | 11.4 | 12.6 | 8.9 |

◇中学生版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1990年 | 1996年 | 2001年 | 2006年 |
| 授業の内容が難しいと思う | ある | - | 66.6 | 63.4 | 65.5 |
| ない | - | 32.3 | 35.2 | 33.8 |
| 授業の内容が簡単すぎると思う | ある | 19.8 | 20.2 | 19.7 | 20.6 |
| ない | 80.0 | 78.8 | 78.9 | 78.6 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| あなたは勉強について、次のように思うことがありますか(複数回答可能) | どうしてこんなに勉強しなければいけないのかと思う | 45.9 | 49.5 | 56.5 | 43.8 |
| もっと科目の数を減らしてほしい | 34.2 | 38.9 | 44.4 | 35.2 |
| 覚えなければいけないことが多すぎる | 54.6 | 57.4 | 63.0 | 56.9 |
| 努力しても成績が思うように上がらない | 38.1 | 40.2 | 41.6 | 46.6 |

◇高校生版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1990年 | 1996年 | 2001年 | 2006年 |
| 授業の内容が難しいと思う | ある | - | 75.5 | 77.0 | 78.2 |
| ない | - | 24.1 | 21.9 | 21.6 |
| 授業の内容が簡単すぎると思う | ある | 10.4 | 10.1 | 11.6 | 13.7 |
| ない | 89.4 | 89.5 | 87.4 | 86.2 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 90年 | 96年 | 01年 | 06年 |
| あなたは勉強について、次のように思うことがありますか(複数回答可能) | どうしてこんなに勉強しなければいけないのかと思う | 56.8 | 64.4 | 55.5 | 54.5 |
| もっと科目の数を減らしてほしい | 32.4 | 36.7 | 30.7 | 34.1 |
| 覚えなければいけないことが多すぎる | 56.6 | 59.5 | 55.8 | 58.4 |
| 努力しても成績が思うように上がらない | 21.9 | 24.9 | 24.3 | 29.5 |

◇国際比較版の一部抜粋

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 東京 | ソウ | 北京 | ヘル | ロン | ワシ |
| あなたは勉強について、次のように思うことがありますか(複数回答可能) | 覚えなければいけないことが多すぎる | 35.1 | 51.7 | 22.3 | 33.7 | 37.2 | 41.3 |
| もっと成績をよくしたい | 75.5 | 96.8 | 78.7 | 72.8 | 76.9 | 69.5 |
| 新しいことを知るのが好きだ | 61.7 | 83.8 | 74.5 | 77.9 | 79.3 | 70.1 |
| 何のために勉強しているのかがわからない | 9.5 | 16.8 | 3.9 | 10.1 | 9.3 | 10.9 |

1. ここでは、「ゆとり教育」とは、**1998年の学習指導要領により、小中学校では2002年度、高等学校では2003年度から施行されたもの**を指す。主な内容としては、授業時数の縮減、週５日制の導入、児童生徒にとって高度な教育内容の削減、「総合的な学習の時間」の新設、絶対評価の導入などが挙げられる。

「脱ゆとり教育」とは、**2008年の学習指導要領の改正により、小中学校では2011年度、中学校では2012年度、高等学校では2013年度から施行されたもの**を指す。主な内容としては、国語・社会・算数・理科・体育の授業時数を10％程度増加、総合的な学習の時間の削減、外国語活動の導入などが挙げられる。 [↑](#footnote-ref-1)
2. NHK放送文化研究所「2010年国民生活時価調査報告書」<http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/yoron/lifetime/pdf/110223.pdf>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-2)
3. 「趣味・娯楽・教養」には、趣味のこと全般、習い事、資格をとるための勉強、映画や演劇の鑑賞、将棋や囲碁等、スポーツ以外の子どものする遊び、スポーツ以外のサークル活動、テレビゲームが含まれる [↑](#footnote-ref-3)
4. 中学受験情報局『かしこい塾の使い方』「どれくらいの数のお子さんが中学受験するの？」<http://www.e-juken.jp/base_manual/base_02.html>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-4)
5. ベネッセ教育総合研究所「第４回学習基本調査報告書・国内調査　小学生版　資料２　基礎集計表」2006年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/hon/pdf/syo/data_06.pdf>、

「第４回学習基本調査報告書・国内調査　中学生版　資料２　基礎集計表」2006年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/hon/pdf/chu/data_06.pdf>、「第４回学習基本調査報告書・国内調査　高校生版　資料２　基礎集計表」2006年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/hon/pdf/kou/data_06.pdf>、「学習基本調査・国際６都市調査　資料２　基礎集計表」2006～2007年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon_6toshi/hon/pdf/data_19.pdf>　（取得日：2014年7月6日） [↑](#footnote-ref-5)
6. 株式会社日本総合研究所「中央教育審議会 生涯学習分科会 家庭・地域の教育力の向上に関する特別委員会（第8回）議事録・配付資料「地域の教育力に関する実態調査」報告」<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/003/siryou/06032317/002/005.htm>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-6)
7. 国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査：2012年調査分析資料集」2013年12月<http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/pisa2012_reference_material.pdf>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-7)
8. 日本経済新聞、2013/8/28「学力テスト、地域差は縮小　応用力になお課題」<http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG2602E_X20C13A8EA2000/>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-8)
9. ニュースの教科書、2013/12/9「OECDの学力調査。ゆとり教育見直しの結果、順位は上昇したが…」<http://news.kyokasho.biz/archives/19915>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-9)
10. NHK放送文化研究所「中学生・高校生の生活世意識調査・2012」2012年<http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/yoron/social/pdf/121228.pdf>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-10)
11. ベネッセ教育総合研究所「第４回学習基本調査報告書・国内調査　中学生版」2006年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/chu/hon2_1_27.html>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-11)
12. ベネッセ教育総合研究所「第４回学習基本調査報告書・国内調査　高校生版」2006年

<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/kou/hon2_1_27.html>　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-12)
13. 第１回は1990年、第２回は1996年、第３回は2001年、第４回は2006年に行われている [↑](#footnote-ref-13)
14. 文部科学省「学習指導要領で定められた授業時間数」<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/07061432/005/002.htm>　（取得日：2014年7月5日）、「授業時数(平成10年改訂→平成20年改訂)の比較」<http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1304385.htm>　（取得日：2014年7月7日） [↑](#footnote-ref-14)
15. 東京工業大学130周年記念サイト[www.130th.titech.ac.jp/event/pdf/library\_130th.pdf](http://www.130th.titech.ac.jp/event/pdf/library_130th.pdf)　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-15)
16. 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター「平成24年度職場体験・インターンシップ実施状況等調査結果(概要)」[www.nier.go.jp/shido/centerhp/i-ship/h24i-ship.pdf](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/i-ship/h24i-ship.pdf)　（取得日：2014年7月5日） [↑](#footnote-ref-16)
17. ベネッセ教育総合研究所「総合的な学習の時間への実施期待　Ⅱ調査結果とその分析」<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/sougou_kitai/1999/pdf/data_03.pdf>　（取得日：2014年7月7日） [↑](#footnote-ref-17)
18. 国立政策研究所「OECD国際教員指導環境調査(TALIS)のポイント」<http://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/talis/imags/talis_points/pdf>　（取得日：2014年7月6日） [↑](#footnote-ref-18)
19. ベネッセ教育総合研究所「第４回学習基本調査報告書・国内調査　小学生版　資料２　基礎集計表」2006年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/hon/pdf/syo/data_06.pdf>、

「第４回学習基本調査報告書・国内調査　中学生版　資料２　基礎集計表」2006年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/hon/pdf/chu/data_06.pdf>、「第４回学習基本調査報告書・国内調査　高校生版　資料２　基礎集計表」2006年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon4/hon/pdf/kou/data_06.pdf>、「学習基本調査・国際６都市調査　資料２　基礎集計表」2006～2007年<http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/gakukihon_6toshi/hon/pdf/data_19.pdf>　（取得日：2014年7月6日） [↑](#footnote-ref-19)